



Japanese Literature and Japanese Historical Linguistics 日本文学・国語学専修

日本文学では、古代・中世の和歌や漢詩文、『源氏物語』などの物語文学、説話や随筆、近世では芭蕉・西鶴や秋成らに代表される俳諧や浮世草子、読本、近代では明治期の一葉や漱石から現代文学にいたるまで、ほぼ全ての時代とジャンルを研究の対象としています。古写本や板本、書簡などの文献資料を扱うための基礎技術（書誌学など）の習得に重きを置いています。

国語学では、音韻・文法・語彙・文字などの各分野について、日本の言語を歴史的に研究します。さまざまな言語現象を論理的・体系的に明らかにしていくのですが、社会的、文化的、また心理的な面を考慮することも必要です。古典など文学作品の言語から現代の言語まで、国語に関することは全て対象となりますが、歴史の変遷を考える研究や、文献に基づく研究に重点が置かれます（下線部が日本語学専修との差異）。

自国の文化や言葉について、その歴史的な変遷を含めて深く知ること、すなわち、日本についての“本物の知識”を得ることは、国際化が進み、社会情勢が複雑化する今日、ますます重要になっています。本研究室では、こうした今後生きてゆく上で土台となる思考を学ぶことが可能です。

教員

おかじま・あまひろ
岡島昭浩 教授
たきがわ・こうじ
滝川幸司 教授
きしもと・えみ
岸本恵実 教授
わたなべ・えり
渡邊英理 教授
さいとう・まさお
齋藤理生 教授
みやもと・ゆきこ
宮本祐規子 准教授
あさい・みほ
浅井美峰 准教授
きたがき・ゆうほ
北崎勇帆 准教授
なか・さおり
仲 沙織 助教

https://www.let.osaka-u.ac.jp/jealit/_Nihon/_Nihon_Index.php (日本文学)

https://www.let.osaka-u.ac.jp/jealit/_KoKu_Index.php (国語学)

<http://nichibunkokugo.blog.fc2.com> (ブログ)

何を学んでいるの？

日本文学研究入門

物語論を援用して、日本近代文学の代表的な作品を読解しています。何が書かれているかだけでなく、どのように書かれているのかも分析することで、小説をより豊かに味わえるようになります。

国語学入門

私たちが古文の日本語を難しいと感じるのは、文法、語の意味、表記などが現代と異なっているからです。上代から現代に至る日本語の歴史を、文献に基づき考察する方法とともに学びます。

どんな授業があるの？

【講義題目】

古今集歌人研究
連歌を読む
新聞小説を読む
国語史資料論

【演習題目】

『百人一首』を読む
芥川賞と文学
浮世草子を読む
「きりしとほろ上人伝」(1919)と『天草版伊曾保物語』(1593) 人名に於ける文字と読みの研究

教員が選ぶ印象に残った卒業論文

『和漢朗詠集』の編纂意識とその基盤

——冬部「霞」の成立をめぐる

11世紀に藤原公任が編纂した和漢朗詠集の排列について検討したもの。本集の排列は、古今集などの伝統的な詞華集に学んでいるとされていたが、本集の霜項目を中心に再検討し、同時代の歌人たちの影響があることを具体的かつ周到に明らかにした。(選：滝川幸司 教授)

【卒業論文題目】

建礼門院右京大夫集の表現
——過去を叙述する手法
正岡容『風船紛失記』における断絶と接続
鷲沢筋『ケナリも花、サクラも花』
——語り・他者・言語
宿題の意味の変遷と現在の用法

研究室の雰囲気は？

- A みなさんととも真面目に勉強されています。
- B 分からないことがあれば先輩が優しく教えてくれますよね。
- C 院生の方は資料など何か探し物があるときも助けてくれます。
- D 私は発表準備の際にアドバイスをもらいました。
- B 和やかで入りやすいです。
- A 私はまだ入るのに少し勇気がいるかな(笑)。
- D 慣れれば入りやすいですよ。
- C 留学生の方々も楽しそうにしています。

授業の雰囲気は？

- A 講義よりも演習のほうが多いのが、楽しくも疲れるところです(笑)。
- D 演習はどの授業も意見が活発に出て、とても内容が濃いです。
- C すごくしっかりと議論が行われていると思います。
- B 質疑応答が盛り上がり、授業外でも学生同士で議論している姿を見かけます。
- D アットホームで発言しやすい雰囲気があります。
- A 学年に関係なく自由に意見を言えます。笑いもあって楽しいです。
- B みんなの意見・知識が深くて毎回感銘を受けています。
- D 好きなことができていて実感があります。

はじめての演習発表

- A 最初は手探り状態でしたが、先

- 輩方の発表を参考に資料を作りました。発表後、意見をもらったのが嬉しかったです。
- B 発表するという事は担当内容について責任を負うことだと思っています。限られた時間の中で論理的な内容を組み立てるのが難しいです。
- C さまざまな質問をもらって視野が広がりました。
- D くずし字が読めなくて大変でしたが、調べてゆく内に分からないことが分かってくるのが面白いです。
- A 質問されるのが怖くて緊張しました。ただ、この緊張感は自分を成長させてくれるように感じます。
- C 準備をしていれば心配することはないですよ。
- B 発表を終えた際の達成感、言葉にしがたいものがあります。
- D はじめは分からないことばかりですが、分からないことはどんどん周りに聞くと良いですよ。

印象に残っている授業

- B 古典文学の演習では、くずし字を読むところから始まり、語句の解釈なども行いました。はじめは意味の分からなかった和歌が、さまざまな方向から調べてゆくことで理解できたときは嬉しかったです。
- A 国語学の演習では、実際の資料に触れながら、室町時代・江戸時代などの日本語の現象を分析する機会が多く、現代語との違いを考えるきっかけにもなりました。
- C 近代文学の演習では、質問がど

- しどし飛んできて楽しかったです。
- D グループで話し合いを行うので、さまざまな人の意見を知ることができて楽しいです。
- 先生はどんな人？**
- C 親しみやすい先生が多く、質問などもしやすいです。
- B 演習でも、基本的に学生の意見を受け入れた上で、学生には思いつかなかった観点からアドバイスをくださるのでとても勉強になります。
- A 最初は話しかけるのに勇気がいりましたが、面白い先生が多いです。ご自身の分野の話がされているときはひととき楽しそうに話されます。
- D 私は初めて研究室見学に行ったとき、挨拶ただけで出身地を見破られてしまいました。日々ことばを研究されている先生方の観察眼に驚きました。

先輩へのメッセージ

- A 時代を問わず、興味があるなら、その「興味」を「学び」に発展させられる研究室です。
- B 専修内でも講義や演習の内容は幅広く、学べることも多いです。関心が多方面に向いている方にお勧めです。
- C じっくり勉強ができる専修です。高校までの「国語」で知っていると思った日本語・日本文学を、まったく別物として見るができます。
- D 「研究」は、高校時代に思い描いていた「勉強」よりも楽しいです。自分から積極的に行動すればするほど、学べることが多くあると思います。

